

空中ブランコ練習 どれくらいした？ 児童がサーカス団員に質問

豊見城市で開催中の木下大サーカス沖縄公演(琉球新報社主催)の団員に、

サーカスの仕事の
ことを手紙に書いて
送った仲村音葵



木下大サーカスの下地和也さん(左端)との質問コーナーで、空中ブランコで硬くなった手を触る仲村音葵君(右から2人目)と、弟の優杏ちゃん(右端)、當銘峻君(21日、豊見城市の豊見城市の豊崎タウン特設会場)

君(8)＝兼城小3年Ⅱが21日、同サーカスの公演後、空中ブランコで活躍している県出身の下地和也さんに話を聞いた。

手紙を受け取った同サーカスが、音葵君と弟の優杏ちゃん(6)＝兼城幼稚園、友人の當銘峻君(9)＝同小3年Ⅱを招き、質問コーナーが実現した。「空中ブランコはどれくらい練習してできるようになりましたか」など、音葵君が家で一生懸命考えてきたという質問に、下地さんは一つ一つ丁寧に答えた。

質問コーナーの後はテントの裏側を見学。キリンのマサイ君と触れ合ったり、空中ブランコの足場に登る体験をしたりし、楽しみながらサーカスについて学んだ。音葵君は「聞きたかったことを全部質問できて良かった。すごく楽しかった」と満面の笑みを見せた。